

第29回麻布大学同窓会九州地区連絡協議会に出席して



去る、平成25年6月29日（土）第29回麻布大学同窓会九州地区連絡協議会（以下九連協）が宮崎市で開催されました。九州各県の支部長、事務局の方々、また、政岡学長及び小野口同窓会長を来賓してお迎えし、活発な議論が交わされました。

協議会は29日午後2時定刻に開始され、長友九連協会長から九州は一つという力強い挨拶の後、学長、同窓会長に来賓挨拶をいただきました。その後、事務局から会計報告が行われ、全会一致で承認され、粛々と議案等が進行されました。また、最後に2年前全国の皆様に支えていただきながら、ようやく収束した口蹄疫について御協力頂いたせめてものご恩返しと、後学のため、家畜防疫対策課長の西元先輩から講演を頂き、すべてのプログラムを終了しました。

今回の協議会で、私が興味を持ったテーマについて、簡単に紹介させていただき報告にかえさせていただきます。

まず、建学125周年を迎えるに当たり、大学も様々な変革を迎えているということです。学内の校舎はもとより、教授会の構成や同窓会のあり方などが議論され、これからの麻布大学のあり方を真剣に検討していることが一つ。そして、與倉東隆先生の銅像建立の要望です。創設者ということからの要望ですが、私自身が全く知らない先生でしたので、建学の精神の話とともに非常に興味を惹かれたテーマでした。そして、地方の同窓会支部の貢献度の高さです。

支部の事務局の一年目で九連協に参加できるという、運のいい経験して、さらに同窓会の結束の強さを実感することが出来ました。今後も県支部の一員として、同窓会を盛り立てていきたいと思えます。

昭和59年卒 安井千俊（宮崎県支部事務局）

